

「第2期元気いばら まち・ひと・しごと創生 総合戦略、元気いばら まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン（改訂版）（案）」
 に対するパブリック・コメントの募集結果について

令和3年1月8日から令和3年2月8日までの間、「第2期元気いばら まち・ひと・しごと創生 総合戦略、元気いばら まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン（改訂版）（案）」について、井原市パブリック・コメント手続により、ご意見を募集したところ、次の9件が寄せられました。

これらのご意見等に対する市の考え方を掲載しておりますのでご覧ください。

貴重なご意見ありがとうございました。

ご意見に対する市の回答

●案件：第2期元気いばら まち・ひと・しごと創生 総合戦略、元気いばら まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン（改訂版）（案）

No.	ページ	項目	ご意見の概要	市の考え方
1	23	第2部 各論 基本目標 1 基本施策 2 農林業の振興 施策 2 耕作放棄地・遊休農地の 利活用	特に優良農地等を対象に、その土地に適した農作物・果樹の選定とその育成手法などの調査・研究を行い、生産者や関係者とともに、適地適作を進めます。 といった記述を加えてはいかがでしょうか？ いくつかのモデル地域を対象に、土地の土質、形状、傾斜、日当たり、アクセスなどをもとに、最適な農作物・果樹を選定し、適切な栽培手法で生産を図ることが重要であると考えます。	ご提案いただいたとおり、以下のとおり下線部分を追加し、修正します。 「 <u>また、それぞれの農地に適した農作物の選定とその育成手法などの調査・研究を行い、生産者や関係者とともに、適地適作を進めます。</u> 」

No.	ページ	項目	ご意見の概要	市の考え方
2	24	第2部 各論 基本目標 1 基本施策 3 いばらブランドの育成・PR 施策 2 農畜産物・農産加工品のブランド化推進	<p>明治ごんぼうや畜産物といった特産品を使った井原ならではの食の開発に取り組み、関連産業の活性化につなげます。</p> <p>といった記述を加えてはいかがでしょうか？</p> <p>例えば、「明治ごんぼうや精肉・加工品に加え、旬の野菜や地域の産物を使った「いばら鍋」といったPR素材を創出することにより、農産加工品のブランド化を図る」や、「特産品を使った高校生等による料理コンテストを開催するなど市民みんなでレシピを考え、井原市の発信素材にするとともに飲食業界の活性化にもつなげる」や、「笠岡市と連携し、両市の特産品を組み合わせた「井笠御前」を創作して売り出すなど、広域的な新たな食の魅力を開発する」などの取り組みが考えられます。</p>	<p>ご提案いただいた趣旨を加え、以下のとおり下線部分を追加し、修正します。</p> <p>「本市農畜産物を生かした新たな加工品の開発を促進し、農業者の収益増大や地域経済の活性化を図ります。」を「本市農畜産物を生かした新たな加工品や素材の強みを活かした食の開発を促進し、農業者の収益増大や<u>飲食業をはじめとした関連産業の活性化</u>を図ります。」に改めます。</p>
3	32	第2部 各論 基本目標 2 基本施策 4 地方創生を担う人材の育成・活用 施策 2 専門的な知識やノウハウを有する人材の活用	<p>「専門的な知識やノウハウを有する人材」として、企業のトップや有識者と連携し、セミナー・講演を開催するとともに、アドバイスを参考にしながら産業振興や地域づくりに向けた効果的な取組を展開します。</p> <p>といった記述を加えてはいかがでしょうか？</p> <p>企業のトップ等の知識や経験を参考に、産業振興や地域づくりを効果的に進めることが重要であると考えます。</p>	<p>ご提案いただいた内容については、『施策2 専門的な知識やノウハウを有する人材の活用』ではなく、『施策3 大学などとの連携』において、民間企業等との連携、民間企業が持つノウハウ等を活用しながら地域課題の解決及び地域活性化を図っていく旨を記載させていただいております。</p>

No.	ページ	項目	ご意見の概要	市の考え方
4	39	第2部 各論 基本目標4 基本施策1 健康寿命の延伸 施策1 健康づくりの推進	<p>健康長寿を目指し、元気アップ体操をはじめ、ウォーキング等身近な運動の実践など、地域での日々の取り組みを通じ、幅広い世代において身体の健康づくりを進めます。</p> <p>といった記述を加えてはいかがでしょうか？</p> <p>心の健康だけではなく身体の健康増進との両輪で取り組む必要があると考えます。</p>	<p>ご提案いただいた趣旨を踏まえ、現行の記述について以下のとおり下線部分を追加・修正します。</p> <p>「市民が健やかでいきいきと暮らせるよう、<u>元気アップ体操をはじめ、生活習慣病予防などの健康づくりを進めるとともに、「笑い与健康」「笑いと教育」「笑いと食育」をテーマとして普及活動を行い、幅広い世代において、心と身体の健康づくりを進めます。</u></p>
5		総合戦略のファイル名	<p>Web上の素案ファイルが「世羅町第2次まち・ひと・しごと創生総合戦略-senryaku.pdf」となっていた。世羅町が作成したものを盗用したのか。</p>	<p>世羅町の総合戦略と見比べるとお分かりいただけると思いますが、世羅町の総合戦略を盗用・模倣したものではありません。</p>
6	13	第1部 序論 第3章 第1期総合戦略の検証 ●おせっかい保健師健康相談事業	<p>「おせっかい保健師健康相談事業」というものがあるが、もっといいネーミングはなかったのか。こんなネーミングセンスでは、若者が逃げていくのも無理はない。</p>	<p>「おせっかい保健師健康相談事業」は、出張健康相談の類似事業があることから、平成30年度をもって事業を見直し、「いばら出前講座」、「健診結果説明会」として対応しており、事業名としては現在使用しておりません。</p> <p>ネーミングについてはご意見として賜り、今後の事業に生かしていきたいと考えております。</p>

No.	ページ	項目	ご意見の概要	市の考え方
7	26	第2部 各論 基本目標2 基本施策1 関係人口の創出・拡大	「井原市公式インスタグラムフォロワー数」を547件から3,000件にすることを掲げているが、一人の者が複数のアカウントを有することができるため、効果や目標値を掲げることに疑問がある。また、市で多数のアカウントを取得し、フォロワー数を嵩上げすることも可能ではないか。	<p>インスタグラムの指標設定にあたり、フォロワー数は最も基本的な指標であります。フォロワー数が多ければ、それだけ多くの人にリーチでき、さらには、「いいね」やコメント数等、他の指標にも影響を与えます。</p> <p>ご指摘のとおり、一人の者が複数アカウントを有することは可能ですが、影響は限定的であると認識しております。</p> <p>今後も定期的かつ魅力的な情報発信を行うことでフォロワー数の増加を図っていきたいと考えております。</p>
8	9, 38 43	井笠圏域との連携	38、43頁では「井笠圏域」の連携を盛り込んでおきながら、9頁では「井笠圏域」の記述がない。「高梁川流域」、「びんご圏域」とは違う枠組みであり、これらよりも深い連携が必要という認識が欠けている。	<p>ご指摘のとおり井笠圏域での連携も必要であるため、9ページにおいて、以下のとおり下線部分を追加し、修正します。</p> <p>「(3) 国・県・連携中枢都市圏等との連携」として、井笠圏域との連携にかかる記述として、高梁川流域連携中枢都市圏や備後圏域連携中枢都市圏だけでなく、「<u>井笠圏域振興協議会を構成する市町（笠岡市、井原市、浅口市、里庄町、矢掛町）</u>」との連携についても加えます。</p>
9	9, 24 38, 43	「びんご圏域」と「備後圏域」	「びんご圏域」と「備後圏域」、頁によって統一されていないが、何か意味があるのか。	備後圏域の目指す姿や取組等を計画として取りまとめたものが「びんご圏域ビジョン」であり、連携中枢都市圏の名称としては、「備後圏域」で統一しております。